

令和元年度 地域懇談会 報告書

地域名	田中地域ふるさと協議会
日 時	令和元年8月16日（金）午後4時～5時
場 所	田中近隣センター 和室1, 2
参加者	ふるさと協議会役員等 : 11名 地域づくり推進部長 : 1名 田中近隣センター所長 : 1名 社会福祉協議会職員 : 1名 地域支援課職員 : 4名 地域づくりコーディネーター : 2名 合計20名
次 第	別紙のとおり
意見 交換	ふるさと協議会役員 ・地区社協で支えあいと子育て支援に取り組んでいる。支えあいも本格的に動き出したのは昨年度からである。今は各町会長の協力を得て、人員を確保し枝下ろしや草むしりをメインにスタートしている。 ・ただ、手伝う方も高齢の方が多いため、活動を継続しながらスタッフ集めなど、担い手を確保することも課題としている。この辺も各町会にお願いしている。 ・支えあい活動は、主に健康づくり推進員がメインになっている。近隣センター内で週2回ほど開催している。 ・田中地域にも若い世代が入ってきて子育て支援を利用している人が多い。所長から状況を説明願う。
	柏市職員 ・田中地区も人口が増えている。親子対象の事業も2年前は親子13組26人ほどだったが、最近では25組50人以上来るようになった。 ・小さな遊戯室が満杯で、冷房も効かないぐらい盛り上がっている。
	ふるさと協議会役員 ・防犯防災については、各町会で年末年始にそれなりの活動している。ふるさと協議会全体ではなく各町会単位で活動している。 ・全体では7月7日にふるさと協議会としての訓練を予定していたが、梅雨で中止となってしまった。たなかつ子祭りでの七夕のコン

クールも実施できなかつた。

- ・防犯防災は各町会で積極的にやっており、温度差はあるが各町会で団体を作って月に何回か回っている。
- ・担い手不足については、ふるさと協議会というより各町会でなかなか人が集まらない。
- ・6つのキーワードのうち、「報酬を出す」については、町会長に手当てを出しているところもあるが、うちのような小さな町会はそのまでの財源がない。ただ、これからはボランティアといっても、何らかの報酬を出さないと人が集まらないというのも事実だと思う。
- ・この地域の町会長はリタイアしている人が殆どという感じであるが、現役の人の中にもいる。ただ、現役の人は町会業務に時間を取られると、自分の本来の仕事に支障をきたすということで成り手不足になる。現役世代が多い町会は成り手がいないということでかなり厳しいものがある。
- ・リタイア組みが結構いるところは、なんとかそれなりに人材を確保して無報酬の中で活動をしている。

ふるさと協議会役員

- ・会長の言うとおりに、担い手不足は町会ですごく深刻である。私のいる柏ビレジ自治会は40人の役員がいるが、今年は会長以下全員代わってスタートとなってしまった。そこは経験者のサポーターによるカバーで何とか町会運営がなされている。
- ・今日明日と柏ビレジの夏祭りがあり、現役世代も多いということで、昨日から準備に入るのだから集まるか心配だったが、夏祭りへの意気込みでなんとか人が集まっているという感じであった。

ふるさと協議会役員

- ・柏ビレジも以前は若い世代が多かったが、今は厳しい。

ふるさと協議会役員

- ・私が会長のときは殆ど現役世代で夏祭りの実施は大変だったが、逆に高齢者が多くなり今はそうでもない。

ふるさと協議会役員

- ・ふるさと協議会を知ってもらおうということだが、うちのふるさと協議会は年3回ふるさと協議会便りを出して各世帯へ回覧で回し

ている。また町会で広報を出しているところもある。

- ・“ふる協”という言い方であるが，“ふる協”って何だろうと思ったことがあり，“ふるさと協議会”と言われるとなるほどと思った。略称だとわかりにくい。他の名前を考えてもよいかという気もする。

柏市職員

- ・先日の柏市ふるさと協議会連合会の定例会でも“ふる協”だと一般の方に伝わりにくいので、正式名称を使ってほしいという話があった。
- ・また、町会で広報を出している話が出たが、どのような感じか。

ふるさと協議会役員

- ・私は40代の現役世代で、ふるさと協議会の役を引き受けたときは自営業で自由がきいたこともあり、地域の活動に参加させてもらおうと考えた。ただ、今年始めにサラリーマンに戻って仕事を持ちながら活動して半年たったが、やはり負担が大きい。ふれあい田中やホームページを担当している中で、ふるさと協議会や町会の活動を発信し、楽しくやってきたつもりだったが、サラリーマンに戻っての業務はかなり負担があり、その負担感はなかなか共有しにくいだろうと身にしみて感じている。
- ・そういった中で、いい雰囲気を作ろうと今の状況で町会活動をみると、気分転換の場所、仕事のストレスのかかる場から違う次元で自分が楽しめる空間として、ふるさと協議会や町会の活動を捉える雰囲気を作っていくことが大事ではないかと思い、今ふるさと協議会の中で意図してそういう動きしているところである。
- ・例えば広報の文書作成で言えば、ですます調で書くなど細かいことで縛るのではなく、書きたいことを書いていくようにしないと、どんどん人は引いていってしまう。
- ・自分が仕事で縛られる嫌な思いをふるさと協議会や町会の活動に持ち込んではいけないと考えており、広報活動を通じてのそのような考えでの取り組みが町会活動への参加のし易さに繋がっていくのではと感じている。
- ・細かいところでは、名札や会議の卓上プレートをリニューアルして気分を一新して楽しんで作っていけるような下地ができたらと広報の立場で考えている。

ふるさと協議会役員

- ・広報誌も広報部にお世話になってしまっているけど、お金があつて委託でもできれば、もう少し違ってくるのではないかと思う。ただ、材料を揃えてお願いしますではないが。

ふるさと協議会役員

- ・たなかつ子祭りが中止になったのはある意味ラッキーだったと考えている。毎回「ふれあい田中」の内容は、決まったイベント情報がメインだった。今回、各町会のお祭り情報を掲載するが、トップのイベント掲載部分の写真は、凧上げ大会などであったところをあえて、指にトンボが止まっている写真を持ってきて、ふとしたところに自然とふれあう機会があるんだよと見せた。
- ・たなかつ子祭りが中止となった分、各町会の子ども会の独自の取り組みがあつて、いくつかピックアップできた。船戸町会、花山町会、東十余二町会が独自のお祭りをしたので取材に行った。大青田町会の神輿修復の取材記事では、別の町会も修復をしなければならないのではという記述を入れてしまったりしたが。
- ・先日の消防団の大会のことも写真と一緒に載せている。そういう旬な情報を載せ、必ずしも型にはまった内容でないもので、一石を投げられたと思っている。その辺はホームページへもアップするつもりである。

ふるさと協議会役員

- ・たなかつ子祭り、防災訓練は中止となつて、当町会はたなかつ子祭りとして建物の中で独自のものを行い60名くらい集まった。役員は皆やつて本当によかつたと思った。
- ・寝ても覚めても役員が足りなく悩んでいる。選挙の立会いのように一日で終われば喜んで皆引き受けるが、最低1期2年やることになると、なかなか報酬といつても通信費ぐらいしか出ない。もともとは町会規模が小さい上に新住民が役員をしてくれない。残りの少ない世帯から選ぶことになり受けてくれる人が少なくなる。
- ・皆70代だというのに規約を改正しても辞めるに辞められない。

ふるさと協議会役員

- ・新住民の方はどう入つていったらよいかわからないというのが、まず最初にあるのではないか。

ふるさと協議会役員

- ・イベントは土日であるが準備に平日を結構使う。だから現役世代は会議にも出られない。難しいところである。

柏市職員

- ・なかなか辞めるに辞められないということなのか。

ふるさと協議会役員

- ・長いだけとなっている。

柏市職員

- ・結構、役員の方だけで動いているので負担が多いと思う。同じメンバーが役員と幹事が出てきている。業務を継承する人間が出てこないということで、少し心配に思っている。
- ・岡田さんも両方の仕事をされている。

ふるさと協議会役員

- ・好きだからできる。嫌いではできない。毎日皆と集まっているからできる。

ふるさと協議会役員

- ・このふるさと協議会には運営委員会というのがある。運営委員会は50人近くいる。その運営委員会に文化部や体育部などあって、そこが実際には動いている。町会長はふるさと協議会のいろいろなポストについており、その50人が各部に分かれて活動している。他のふるさと協議会とは組織的に少し違うところがあるかもしれない。

ふるさと協議会役員

- ・田中地域のイベントが多い。そして町会ごとにもイベントを持っている。町会独自とふるさと協議会独自のイベントを比べると、ふるさと協議会の方が多い。うちの町会は夏祭りをひっそりとやっている。
- ・役員が代わった時点でその辺を改革しないと、もう何十年も同じことをやっている。どこかでどちらかのイベントを切るところは切るようにしないと何も変わらない。人が代わらないとなかなかそれ

はできないと思う。

ふるさと協議会役員

- ・人が代わってもやってくれる人がいない。そろそろバトンタッチしたい。一番古いから。

ふるさと協議会役員

- ・ふるさと協議会の運営委員は約50名いて、その中で部長がいる。だけど引継ぎ者がいないので、部長の人たちが代わると言いながら10年くらい経つ。
- ・運営委員は各町会から1～3名出してもらっている。町会の規模によって、200軒以内は1名、200～400軒で2名、400軒以上で3名を出してもらっている。
- ・運営委員も楽しくやってもらっている。行事の反省会の後でも楽しい雰囲気です。出席率も会議には50名中40名程になり、行事準備の前日か行事当日か、どちらかで全員が出ている。

ふるさと協議会役員

- ・個人的な話になるが、皆さんやっぱりまじめである。ふるさと協議会の活動に参加してから10年ほど経つが、ふるさと協議会の居心地がすごく良く良い空気もある。それだからこそ自由に楽しくできている。

ふるさと協議会役員

- ・それは同感である。他は知らないが、このふるさと協議会はすごく雰囲気が良い。岡田さん、竹之内さんのお陰であると思う。
- ・ただ、消費生活コーディネーターもしていて、1年で辞めたいと思っても、後釜がなかなか見つからない。そこを会長にお願いしたい。

ふるさと協議会役員

- ・私もそろそろ任期満了としたい。(笑)

ふるさと協議会役員

- ・何でもかんでも町会長宛てに市役所から民生委員、健康づくり推進員の人選依頼があり、選挙の立会人のように1日立って報酬が出るのはよいが、民生委員、健康づくり推進員のように1期3年とな

ると違ってくる。

- ・そういう人を探すために何軒回っても、元々軒数がないところもあり非常に苦慮している。だから欠員となる。町会長は顔も広くないし、全軒知っている訳でもない。

ふるさと協議会役員

- ・私は消費生活コーディネーターをしており、ふるさと協議会役員もしながら1期2年で18年間している。
- ・10年程経ったころから、消費生活コーディネーターを代えてほしいと町会長にはお願いしている。
- ・ただ、町会長も色々な担い手を一所懸命探すか、結局見つけられないので、ふるさと協議会の会長からもう1期やってほしいと頼まれて続けている。でも、20年は勘弁してほしい。
- ・市役所から各町会長に依頼して、民生委員、消費生活コーディネーターを人選するのも限界にきていると思う。
- ・結局、役を辞められず長くやっているのだが、町会長はまだしも、私たちのような役をあまり長くやるのもどうかと思う。だから市役所としても人選について違う観点で見てほしい。
- ・いつまでも町会長やふるさと協議会会長への負担が掛かり、次の担い手もないということになって、今の人選のやり方は曲がり角にきていると思う。これからどうしたらよいか市役所にも考えてほしい。

ふるさと協議会役員

- ・消費生活コーディネーターは年齢制限があるのか。

ふるさと協議会役員

- ・年齢制限はない。70歳前に終えたい。できれば1期2年で何期かやってもらったほうがよいので、現役の人は難しいが60歳前後からやってもらおうとよいと思う。
- ・また「報酬を出す」とあるが、交通費プラスちょっとなので、報酬があっても嫌だという人が多い。報酬につられてやるというよりも、面倒なことはしたくないという風潮になっている。
- ・町会の役員だと町会長と一緒に祭りなどやっていけるのだが、民生委員や消費生活コーディネーターは一人である。ただ報酬を出すだけではなく、違う観点で人選をするか、人数を極端に絞るかした

いと難しい局面にきているのではないかと思う。

ふるさと協議会役員

- ・私は2期民生委員をした。11月に改選があるが色々な人に民生委員をやってもらいたい。若柴町会長には迷惑をかけるが人選の対応をしてもらいたい。

ふるさと協議会役員

- ・民生委員は自由な時間がない。私も40歳終わりぐらいから自由な時間がない。(笑)

ふるさと協議会役員

- ・それは私も理解している。町会長に迷惑を掛けるけど、自由な時間が取れるようにお願いしたい。

ふるさと協議会役員

- ・それは仕方がないと思っている。

ふるさと協議会役員

- ・報酬の話だが、町会長や民生委員にしても今度の国勢調査員にしても、成り手のお願いが大変である。
- ・このような制度ボランティアを探すときに、民生委員や国勢調査員には手当てが出るが、町会長が人を探すための手当ては一切出ない。報酬が出るボランティアを探す町会長へは何らかの手当てを市で見てあげた方がよいという気がする。
- ・後任を探すのは結構大変で、私の町会でも主任児童委員が見つかっていない。
- ・人選の期限を切られているのも厳しい。どうしたらよいかと思う。市長からの依頼文書ひとつだけではなく、何か考えてもらった方がよい。

ふるさと協議会役員

- ・今の人はお金じゃなくてやりたくない、ともかく面倒なことはやりたくないのだ。

ふるさと協議会役員

- ・社協で、たすけあい活動がすすんでいるが、結局、民生委員にお願いすることになる。高齢者と接しているのは民生委員である。困っている人がどうかというようなことは、民生委員がみんな把握している。それで民生委員から紹介されて、草刈りや枝打ちに行ったりする。
- ・要するに民生委員の仕事の範囲がどんどん増えている。民生委員をお願いするときに、そういうところまで話してしまうと、そこまではできないと言われてしまう。なので「民生委員さんは楽ですよ」と持っていかないと受けてくれないので、負担がますます増えているのが実情である。多少手当てをもらっても大変であり、難しいところである。

ふるさと協議会役員

- ・制度ボランティアも高齢化社会になって、日本の人口も8,000万人まで減っていくという中で、昔からの制度であり、日本全体の大きな問題となってしまうが、どうするのかと考える必要があると思う。皆70歳以上ばかりになってしまう。

ふるさと協議会役員

- ・中野台町会の運営委員を引越してからすぐ受けて、15か16年経つ。
- ・結局、新しい方がきても町会に入らない人が多い。田中小学校の周りの町会なのに、子どもが片手くらいしかいない。町会の人がいないので運営委員も回し回しできず、何故だか私がずっとやっている。総務なのにパソコンもできず、皆さんに迷惑を掛けている。
- ・根本は町会に入らないというところからきて、人手不足となり、高齢化も進み、若い世代も働いているからできないという、悪循環に陥っている。ひとりの人がずっと長くやるという傾向が田中地域は多いことを一番感じている。

柏市職員

- ・先ほど、民生委員の人選がそろそろ限界にきている話があった。私は6年程前に民生委員の担当部署で、推薦のお願いをふるさと協議会にしたこともある。
- ・その時にも町会推薦では無理なのでということで、公募の制度を

取り入れられないか調べたことがあった。当時現役の民生委員や会長たちと検討会を開き意見交換をした。

- ・その過程で、那覇市の民生委員はすべて公募だったというのがあった。結果、公募の取り入れは時期尚早ということで見送った経緯がある。キャリアも色々な方がおり、どういう意図を持って入ってくるかわからない。高齢者に入り込む仕事なので、知らない方が入ってくるのは如何なものかということがあった。
- ・マンションの中から民生委員を出さなければならないときに、町会長の発案でマンションの自治会の中で募集をかけたことがあった。実は何人からか手が挙がったケースがあった。前の住居で民生委員をしていたという人がいて、やってもいいということだった。新しいマンションでは、そういうこともあるかもしれないということがあった。新住民がみんな地域活動を敬遠しているかという、池永さんのような方もいるように、一概に言えないと思う。なかなかすぐに町会長に人選をお願いするという形が変わるかどうかはわからないが、あまり変な人が入らないように少し工夫しながらといった方向があるかと考える。

ふるさと協議会役員

- ・今回の市議選は36の定数に49人の立候補者がいたが、やはり魅力があるから立候補するのだと思う。制度ボランティアも何か魅力があれば、先ほどの課長の話のように、やりますという手が挙がるかもしれない。

ふるさと協議会役員

- ・町会で民生委員募集なんて回覧しているところはない。町会長に依頼があったら回すにしても町会長が審査して、どうかという人ははずしていくとか、そういうことをしてもよいかと考える。

ふるさと協議会役員

- ・その人がわからないと、知らないと推薦できない。年齢制限もある。

ふるさと協議会役員

- ・私は田中地区の担当で子育てサロンなど地域を回って声を聴いている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年くらい前から越してきた世代，核家族の人ですくすく田中に遊びに来て子どもが頭を打ったとき，病院を探すのに教えてもらったのが非常に助かったと言っていた。 ・ 田中地域に実家があって他の地域の方と結婚したが，ここの開発と環境がすごく良くて，戻って来て家を買った人もいる。すくすく田中の利用もこの3月までで1，300人を越え段々増えていると聞く。 ・ 非常に子育てしやすいということや，いろいろ聞ける人がいてすごく助かっていると聞く。 ・ おそらくその方たちは助かったという気持ちを忘れないと思う。一方，ボランティアでそれが成り立っているということを知らない人が多く，ファミリーサポートなども周知しながら回っているが，皆さんのボランティアの精神で成り立っていることを周知していきたい。 ・ 周知していくことで，違ってくるといいなと最近は感じている。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">いただいたご意見のまとめ</p>	<p>(地域の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマに沿って主に担い手不足についてご意見をいただいた。 ・ その中で解決策として報酬について様々なご意見をいただいた。 ・ 会長からはボランティアと言えども，これからはきちんと報酬が必要な時代ではないかとのお話を伺った。 ・ 民生委員，消費生活コーディネーターも報酬があるにはあるが，活動に見合った額ではないというご意見をいただいた。 ・ 報酬の額，有無にかかわらず，そもそも面倒くさいことを嫌がる時代になっているので，なかなか見つからないと伺った。 ・ 民生委員，消費生活コーディネーターの人選に関しては，それを探す町会長に手当てが必要であるというお話も伺った。 ・ ふるさと協議会を知ってもらうということについては，池永さんから広報作成における工夫を具体的に伺った。 ・ 担い手不足に関しては，いくつかご意見・課題をいただき，ふるさと協議会の中というよりは町会の中で見つからないこと，若柴町会の場合では人口は増えているが新しい方になかなか成り手になってもらえないし見つからないこと，役員を元々の住民で回しているため，同じ方がどうしても長くなってしまいうということ。 ・ 各町会長が推薦するという人選の形にはもう限界があるとのことご意見をいただいた。

(柏市職員の感想)

- 一番時間を割いて意見をいただいたのは、いい雰囲気をつくるといったところだったと思う。
- 田中ふるさと協議会は、各町会から運営委員が出て、運営委員が主に各事業やイベント等を運営している。その人数が50人ぐらいだが、皆さんが入ってみて楽しい、やってみてよかったと思われて、ずっと続いているのだろうとみなさんのご意見を聞きながら感じた。だから田中ふるさと協議会はとても居心地がよい。運営委員をやった1年目からとても楽しかったので続けており、そういったいい雰囲気を皆さんが体現できて活動していると思う。
- 地域懇談会は今回で9箇所目だが、田中ふるさと協議会の皆さんの仲の良さや情報交換の密の高さが感じられた。